

平成19年度予算の概要

「持続可能な行財政基盤の確立に向けた予算！」

一般会計

一般会計予算額は、前年度当初予算に比べて4億5千3百万円（3・1％）の減となったところですが、これは、元金償還等の終了による公債費の減等が主な要因となっています。

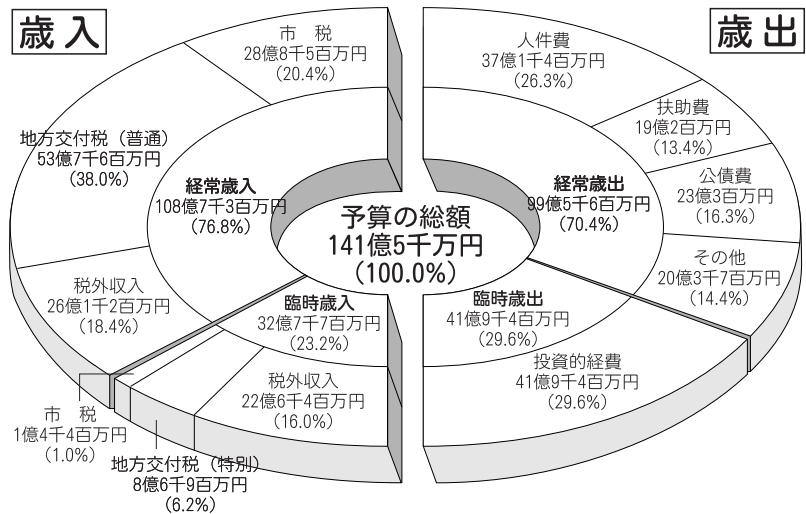
歳入は、地方交付税が全体の44・1％を占め、次いで市税21・4％、道支出金7・5％、国庫支出金7・2％などの順となっています。また、市が独自に調達できる自主財源は、前年度当初に比べ3億1千8百万円（8・0％）の増となり、全体に対する自主財源の割合は、30・5％と前年度当初に比べて3・2ポイントの増となっています。

歳出は、目的別にみると職員費、民生費、公債費、土木費で全体の72・3％を占めており、性質別では、義務的経費（人件費、公債費、扶助費）

が前年度当初に比べて7千5百万円（0・9％）の減となっています。

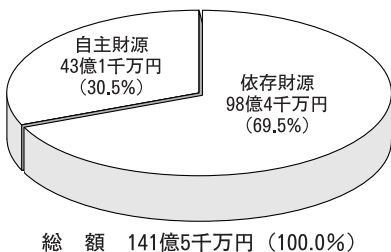
普通建設事業では、市営住宅整備事業、光洋給食共同調理場整備事業、都市公園環境

整備事業等を実施しますが、逼迫した財政状況から、前年度当初に比べ16・0％（2億6千9百万円）の減となっています。



◎財源の構成(一般会計)

自主財源：市税、使用料及び手数料、財産収入、繰入金など
 依存財源：地方交付税、国庫支出金、道支出金、市債など



(単位：千円)

会計名	19年度当初予算額	18年度当初予算額	比較増減額	伸び率
交通共済	10,511	10,647	△ 136	△ 1.3%
国保事業	4,489,500	3,971,700	517,800	13.0%
老人保健	2,961,673	2,819,501	142,172	5.0%
污水会計	26,480	26,562	△ 82	△ 0.3%
農業用水	44,446	51,925	△ 7,479	△ 14.4%
介護保険	1,174,602	1,148,479	26,123	2.3%
合計	8,707,212	8,028,814	678,398	8.4%

特別会計とは、特定の収入を財源として特定の事業を行うため、一般会計とは区分して経理する会計です。

特別会計

(単位：千円)

会計区分	予算額	増減率	繰出する内容
特別会計			
交通会計	356	2.3	要保護世帯等の共済費分
国保事業	369,822	18.6	保険基盤安定制度に基づく繰出金ほか
老人保健	251,737	13.3	医療給付経費、医療支給経費等の負担分
污水会計	18,500	1.9	污水处理施設使用料の収入を控除した不足額
介護保険	191,134	△ 4.6	職員の人件費および介護給付費等の負担分
小計	831,549	10.4	
企業会計			
港湾会計	63,956	△ 0.4	会計間協議に基づく漁業補償等の負担分
水道会計	45,385	16.0	消化栓新設等の負担金など
下水道会計	297,592	37.3	雨水処理経費等の通達に基づく支出金ほか
病院会計	481,405	△ 35.3	基準内繰出金のほか、へき地医療確保に要する補助金等
小計	888,338	△ 16.5	
合計	1,719,887	△ 5.4	

特別会計や企業会計に対して各事業の推進を図るため、法令等に基づいて一般会計が一定の額を負担することとしているもので、特別会計へは繰出金として、また、企業会計へは支出金として経理されます。

特別会計および企業会計への繰出金の状況